

公開用会議録

場 所：小諸市役所3階 第1会議室

委員 11名（欠席者 井出副座長、山口委員、市川委員、福田委員、小林佳委員、大池委員）

事務局 5名

1. 開 会
2. あいさつ 渡辺座長、小林教育長
3. 小中一貫教育について
 - (1) 佐久穂中学校の現状と信濃小中学校視察研修について 金井学校教育課長
 - (2) 小中一貫教育の感想
4. 中間報告会について
5. その他

第8回 日時：平成29年8月24日（木）19：00～
会場：市役所3階 第1会議室

中間報告会 日時：平成29年9月29日（金）19：00～
会場：市民交流センターステラホール

6. 閉 会

3. 小中一貫教育について

- (1) 佐久穂中学校の現状と信濃小中学校視察研修について
第6回会議及び信濃小中学校視察研修結果について、金井課長より説明

- ## (2) 小中一貫教育の感想

委員：小諸市での小中一貫教育を想定すると、中学校の施設は建築後 20 年程度で比較的新しく、小学校は建築後 40～50 年と老朽化している中で、建設時期や場所の検討が必要と感じた。また、老朽化の観点から考えると、保育園もかなり老朽化していると聞いたので、保育園の併設も検討して良いのではと感じた。

委員：小諸市での小中一貫教育を想定した場合、佐久穂型は難しいが、信濃町型であれば導入できると感じた。ただし教員の確保と学校の場所が確保できるのかが課題。小中一貫校ではＰＴＡの活動が軽減されているということだが、まだ不明な点が多い。信濃町では給食センターがあるが、学校最寄りのため併設でもよかったと

いう話もあった。また、地域の応援や学校に関わる組織の運営が難しくなるのではないかと感じた。

委員：佐久穂町、信濃町の２校の事例を勉強したが、まだ良くわからないことが多い。どちらも少子化による児童生徒数の減少という課題を、町行政が深刻な問題としてとらえ、小中一貫教育という学校のスタイルを取り入れたのだと認識した。義務教育学校ではあるが、７年生から制服を着るということは、今までの小学校と中学校の枠を取り払うことができない難しさがあるのかもしれない。

小諸市で導入するとしても、町とは規模が違い、それぞれに伝統もあると思うので、どのようなスタイルとするのか検討が必要。また、場所も規模も課題だ。

委員：信濃小中学校の視察の感想は、廊下で会った子どもたちが気持ちよく挨拶をしてくれる姿など、上級生が下級生の手本となる姿がみられた。下級生も人間関係については問題ないように感じた。一方で、小学生を卒業する感動、中学校に入学する新鮮な感激などの体験が得られるのかとの疑問がある。いろいろな地域から通学しているので、地域の応援団の協力は大きいと感じた。また、９年間の教育課程の仕組みを綿密に立てる必要がある。通学の面では、安全指導に今まで以上に気を使うと思った。これらの点を踏まえると、現時点では小中一貫教育を前向きに考えられない。小諸市の場合は、美南ガ丘小、東中のように児童生徒数が安定している地域は現在の方法、それ以外で児童生徒数が減少する地域では小中一貫教育を考えるということもあるが、はっきりは言えない。

委員：大きな流れでは小中一貫教育に魅力を感じているが課題もある。芦原中の規模では導入可能かもしれないが、小諸東中の規模での導入は難しさを感じる。新たな校舎建築の可能性にもよるが、芦原中周辺に小学校用の土地を確保できるのか。一つの市に小中一貫校と、従来型の小、中学校があるということが公平性という面でどうなのか。希望により通学させる学校選択制を可能にした場合、学級数が安定せず見通しが立たず、教員数が決まらない等、学校運営が難しいだろうと感じた。一方では個別の支援を必要としたり、小規模の学校を希望する保護者や児童生徒に対応できる学校設置も必要と感じる。

委員：佐久穂町は小規模でコンパクトにまとめられていると感じた。信濃町では、児童の氏名の書かれた通学時間の一覧が柱に貼ってあり、通学対策として工夫されていると思った。小中一貫教育は良い教育だとは思いますが、小諸市に当てはめるとまだいろいろと検討することがあると思った。

委員：児童生徒、教員の対応など混乱はないのか、問題は何があるのかよくわからず課題が多いと感じた。小諸市は問題の洗い出しから進めていかないといけないのではと感じた。信濃町は住民の声で小中一貫教育を導入としてきたが、小諸市はそうはいかないのではないか。小諸市は各学校の地域性や特色を大事にしており、地域の思いが強い。この理解を得るためには時間がかかるのではないかと感じた。

委員：視察前は小中一貫教育が現場でどのように行われているのかよくわからなかったが、少しはわかった気がする。ただし、これが学校の在り方として良いのか悪い

のかというのは正直言ってまだわからない。小諸市に当てはめると一校だけ先に導入することが良いのか。また、市全体で考えると小中一貫校が3校くらい必要になるが、同時期に全て建設することは可能なのか。1年生から9年生が一緒にいることはどんな雰囲気なのか、子どもたち自身に聞いてみたい。学校を新しくします、小中一貫校では学力向上が見込めます、と市民の皆さんに説明し、学力向上ばかりを重視した場合、置き去りになる子どもがでるのではという心配も出てくる。また、小中一貫校から通常校に転校した子どもへの対応も心配だ。

座長：佐久穂町、信濃町の視察をしてもなおわからないことが多いが、小中一貫教育というシステムは良い制度かなという印象を持っている。児童生徒が多様な人々と接し合い、お互いに人間として心身を伸ばし、学力も伸ばし、学習意欲も加味されるという意味では、やはり人間同士で学び合うシステムがいいのかなと思う。小学校高学年になれば理科や音楽だけでなく、英語や数学も教科指導力の高い先生に教わるというのが大事なこと。実際には地域の願いというより、親の願いの一番は学力向上で、人生の幅を広げるためにも子どもに期待しているのではないかと思う。そういう意味でも小中一貫教育は良いと思う。ただし、小諸市で果たして可能かどうかという、非常に難しいのではないか。中学校が二校ある時点で難しいことはわかると思うが、小諸市で導入するとしたら、小諸市の型を考えていかなければならないと感じている。

委員：信濃町を視察して、施設がきれいというのはもちろんだが、機能的に考えられている。図書館や廊下は広く明るい。地域の特色でもあるスキー置き場の設備など、大変魅力のある学校だと思った。雰囲気もとても良かった。小学校1年のまだ小さな児童から中3の大人びた生徒がいるが不自然さはなく、自然な雰囲気を醸し出していると感じた。各小学校の老朽化が進んでいるので、校区を変えて小中一貫教育でコンパクトに学校整備を進めるのも選択の一つだとは思いますが、地域の特色、各学校の伝統など課題は多い。小諸市はまだまだ検討が足りないと思う。

委員：信濃町の資料を見ると、当初は慎重に協議した経過があった。信濃町はスタート時点で住民が主体となり意見が上がってきたという点で我々とはスタンスが違う。校舎等のハード面は、新しい校舎で工夫も施され素晴らしいと思うが、ソフト面は信濃町、佐久穂町ともに模索中という気がした。子どもたちに対して一番重要な教育的効果という面では、まだ取り組み中という感じだった。小中一貫教育を実際に視察してみて、良い取組みとは思いますが、それがそっくり小諸に当てはまるかという、まだ諸々解決しなければならないことがあると思った。

4. 中間報告会について

進め方や報告の内容について金井課長より提案。

委員：児童生徒数の減少を示した以前の資料では、市内の1歳児がついに300人を切って275人となっていた。これから先6小学校の維持は不可能ではないか。30人で3学級だと90人、現状の6校で計算すると540人は必要ということになる。しかし、1歳児が275人となれば、やはりある程度結論を出していく必要があるのではないか。

座長：P T Aの皆さんに聞いておきたいが、学校に対する親の願いと同窓生の願いと地域の願いというのは必ずしもイコールではないように思うが、いかがか？その辺のところを確認しておきたい。3つの願いが共通であると受け止めてしまう傾向があるように思うが、どんなものか。

委員：中間報告会では、検討会で方向を一方向に決めて市民の皆さんに報告することは難しいのではないか。委員それぞれ意見をもってこの場に来ており、当然意見は多種多様になってしかるべきだと思う。私も当然意見をもってこの場に来ている。私が代表として来ている学校でも同窓の方、地域の方の願いというのも反映していかなければいけないと思う。学校の存続などの話は、まだ賛同できる内容ではないというのが正直なところ。

座長：親としてはどうなのか？

委員：親として考えれば考え方は別で、子どもにはある程度教育環境が整ったところで学んでほしいという希望はあるが、地域の代表として考えるなら統合という一方的な答えで話するのは難しい。

座長：そういう話を聞いておかないと、報告会を開いてもうまくいかない。